

より大きな地域貢献を目指し

市立高専・高専の

4年制大学化が必要

市では、デザイン系の市立高等専門学校（高専）と、看護師を養成する市立高等看護学院（高専）の4年制大学化について、幅広い市民議論を行いながら検討を進めています。このたび、市民議論の中心的役割を担う大学化懇話会が、昨年十一月からの審議経過や市民意見などを踏まえ、両校の大学化の必要性や基本的方向性に関する中間報告をまとめました。その概要についてご紹介します。

なお、大学化懇話会では、この報告について広く市民の皆さんからご意見をいただき、さらに議論を深めながら、年内には市への最終提言をまとめていく予定です。

産業の振興と地域看護の充実を図るために

大学化の背景と必要性

中間報告では、まず大学化の背景と必要性について、少子高齢化や高度情報化が進むにつれ、より高度な学術研究に加え、高い能力を備えた人材育成が求められており、高専歴指も一段と強まっています。

デザイン分野では、ユニバーサルデザインやEIT（情報技術）分野のデザインなど、新しい需要の拡大が予測されています。こうした社会の需要に対応できる人材を養成するとともに、積極的な産学連携を通じて、地域産業の振興に貢献していくために、高専の大学化が必要であるとしています。

また、医療の高度化や地域看護需要の増大などに伴い、

大きなネットワークを持った

発展性の高い大学に 大学化の理念と方向性

中間報告では大学化の理念と方向性について、地域の「知と創造」の拠点として、国際的に通用する優秀な人材の養成と高度な研究に取り組む必要があるとしています。

また、他大学、産業界、行政などさまざまな機関と連携し、規模は小さくても大きなネットワークを持つ発展可能性の高い大学として構想し、大学運営には、学外の各層が参画すべきとしています。

具体的には、次のような取り組みを挙げています。

- △教育・研究の高度化に対応 専門職業人の素養を高めるため、教養教育に力を入れるとともに、高度な実践力を培う教育プログラムを実施する。
- △地域社会に貢献 地域での看護と市民の健康づくりに貢献するとともに、他大学などとの連携を通じて多様な地域貢献を果たす。
- △地域産業に貢献 産学の連携を通じた産業振興に加え、インターンシップの実施などによって産業界との人的交流に力を入れる。

高専・高専の大学化を考える

市民フォーラム開催

「地域と大学」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを行います。
基調講演 川崎和男氏（グッドデザイン賞審査委員長、名古屋市立大芸術工学部教授）

パネルディスカッション
コーディネーター：内田和男氏（北大大学院経済学研究科教授）

パネリスト：川崎和男氏、高橋はるみ氏（北海道経済産業局長）ほか、看護に関する学識経験者と大学設置に関するシンクタンク研究員。

日時 7月10日（水）午後6時～8時。

会場 ポールスター札幌（中央区北4西6）

定員 100人程度。

申込 7月1日（月）までに企画部プロジェクト担当課（右上）へ電話。氏名と電話番号を記載したファクス、Eメールでも可。多数時抽選。

【中間報告書を配布します】

大学化懇話会の中間報告書は、市役所5階企画部プロジェクト担当課、区役所広聴係で6月5日（水）から配布するほか、ホームページでもご覧いただけます。ぜひお読みいただき、ご意見をお寄せください。

なお、中間報告の概要をまとめたパンフレットを6月14日（金）から区役所、図書館などで配布します。

1 すべての人に使いやすいようにデザインすること。
2 学生が、企業で短期間業務を体験すること。